

街づくりにおける環境との共生宣言

& EARTH for Nature

私たち三井不動産グループは、「&マーク」の理念のもと、社会課題の解決を通じた社会的価値の創出を目指し、「経年優化」の思想を大切にしながら街づくりに取り組んできました。

特に環境との共生においては、「& EARTH 自然とともに、未来とともに」という理念のもと、さまざまな取り組みを重ねてきました。近年注目されるウェルビーイング社会の実現においても、より良い環境づくりは重要な課題です。

このたび、私たちの街づくりにおける環境との共生の姿勢を広く社会の皆様に伝えるため、三井不動産グ

ループの街づくりにおける環境との共生宣言「& EARTH for Nature」を策定しました。

「& EARTH for Nature」のもと、日本橋から東京、日本全国へと豊かな環境のネットワークを広げ、次世代へつなぐことを目指し、自然と人・地域を一体の「環境」と捉え、その魅力が循環し、時を経て輝きを増す豊かな環境を創出していきます。

この宣言は、これまでの実践と今後の進化を見据えた、私たちの普遍的な価値観と基本姿勢を表すものです。今後も、私たちはさまざまな街づくりを通じて社会に貢献してまいります。

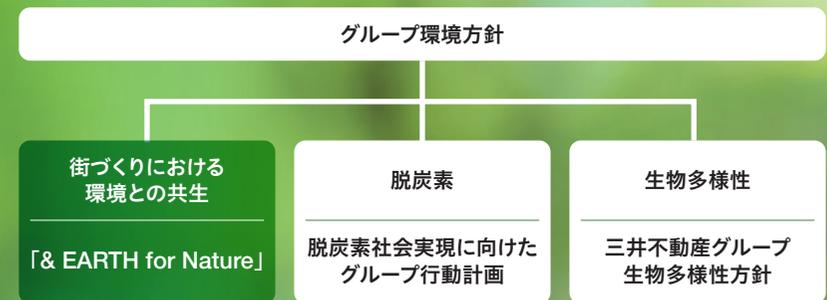
「& EARTH for Nature」の位置付け

GROUP MISSION

& EARTH 自然とともに、未来とともに

GROUP MATERIALITY

環境との共生



街づくりにおける環境との共生宣言

& EARTH for Nature

私たちは街づくりを通じて、持続可能で豊かな「環境」のネットワークを日本橋はもちろん、東京、日本全国へ広げ、そして、次の世代へとつないでいきます。

私たちの考える「環境」

私たちは、自然と人・地域を一体で「環境」と捉えています。

それぞれの魅力が循環し、時を経るごとに輝きを増す、持続可能で豊かな「環境」を生み出していきます。



重点的に取り組む課題



緑を守り育む

方針 その土地の記憶や歴史を継承する緑を守り、新たな緑も創出することで、誰もが緑とともに活動できる環境をつくります

<事例> 神宮外苑地区まちづくり



4列のいちょう並木を保全、樹木*の本数は1,904本から2,304本へ増加
※3m以上の樹木

(2023年4月時点完成予想イメージ)



水の魅力を生かす

方針 その土地の記憶や歴史を継承する水辺を再生するとともに、人々の憩いの場となる水の潤いあふれる環境をつくります

<事例> 日本橋



かつて水陸交通の要衝であった日本橋を、舟運を軸に「水都東京」の拠点として再生（広大な親水空間の創出、舟運ネットワークの構築）



生態系を豊かにする

方針 周辺環境とのつながりや生態系の保全に配慮することで、次世代にわたって生き物と人が共存できる環境をつくります

<事例> グループ保有林



保有林の適切な管理を通じて、森の中やそこからつながる河川・海の生態系も豊かにしていく



地域の想いをつなぐ

方針 周辺地域とともにあることを大切にし、その地域の自然・文化・歴史を次世代へつないでいく環境をつくります

<事例> 福徳神社・福徳の森



福徳神社の社殿を再建し、1,000m²超の敷地の中央を広場とした福徳の森を整備。災害時の帰宅困難者一時滞在施設としても機能(写真提供:福徳神社)



自然資源を循環させる

方針 「“終わらない森”創り」をはじめ、自然資源を適切に循環させ、未来につないでいく街づくりを進めます

<事例> 日本橋本町三井ビルディング & forest



保有林を開発に使用する構造材や内装材に活用

監修



東京大学
未来ビジョン研究センター

高村 ゆかり教授

京都大学法学部卒業。一橋大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学。龍谷大学教授、名古屋大学大学院教授、東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)教授などを経て、2019年4月より東京大学未来ビジョン研究センター教授。

私たちの街づくりによる環境への貢献事例

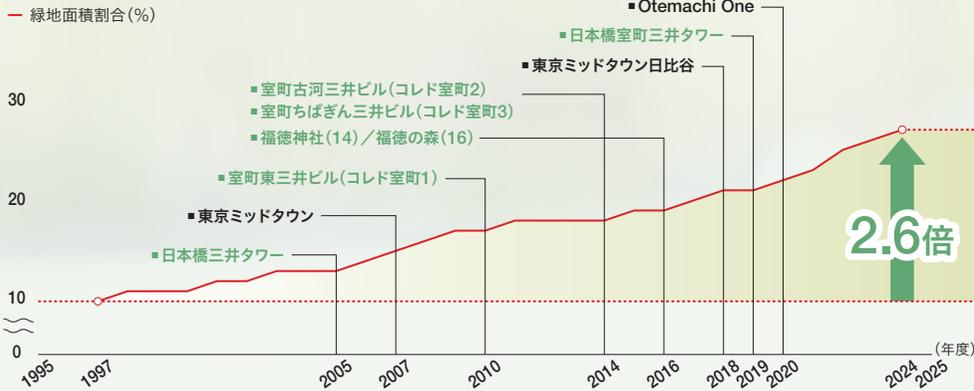
※ 本解析は株式会社シンク・ネイチャーにより、生物多様性ビッグデータとAI技術を組み合わせて実施

緑の“量”

当社グループの街づくりによる緑の量の増加

開発前と比較した緑の“量”は、当社の代表的大規模開発9物件において2.6倍、うち日本橋エリア6物件※では4.4倍に増加しました。

■ 当社の代表的大規模開発 (9物件)



※ グラフ上の緑色文字の物件



東京ミッドタウン (開発前)



東京ミッドタウン (開発後)

※ 空中写真・衛星画像とAI技術を用いて物件ごとの緑地面積を判定。開発前後の緑量変化を追跡評価

緑の“質”

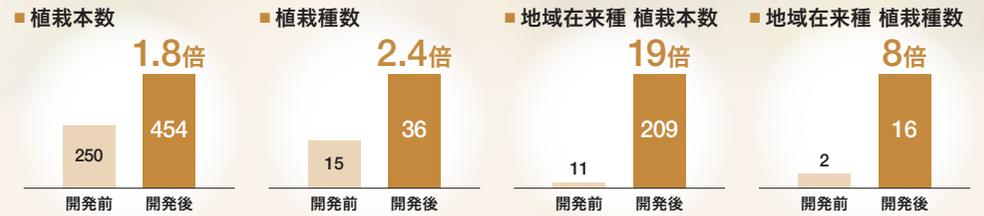
緑の質向上と生物多様性への貢献

東京ミッドタウンでは、開発により地域在来種植栽※1の種数が8倍に増加し、緑の“質”が向上したことで、敷地に呼び込める鳥の種数は1.8倍に、チョウの種数は1.4倍に増加しました※2。

※1 周辺5km以内に自然分布すると推定された樹種を指す

※2 その地域に元々生息している在来種の分布データと、鳥とチョウの植物利用に関するデータを用いて、生物多様性の変化を分析し、緑地の“質”の改善効果を評価。開発前の植栽本数・種数は過去の街路樹植栽記録からの推定

開発により、植栽の本数・種数が増加。特に地域在来種の植栽が大幅に増加。



地域在来樹種の増加に伴い、呼び込める鳥・チョウの種数が増加。

